



安斎正弘

福島県生まれ。木耐協設立当初から技術顧問として組合員の指導や技術開発を行う。2007年国土交通大臣表彰。趣味は社交ダンス

Q79 (解説編P30.(C))柱接合部Kjについて、各壁端部に柱の脚部及び柱頭を確認するようになるのですが、柱頭の確認はどのように行うのでしょうか？(1階柱頭のふところが狭く)柱の近くまで行けない、角度によっても見えないこともある。また、脚部についても床下に入れなかったり、例え入れても筋かいが床下から確認できる場合の方が少ないのですが。

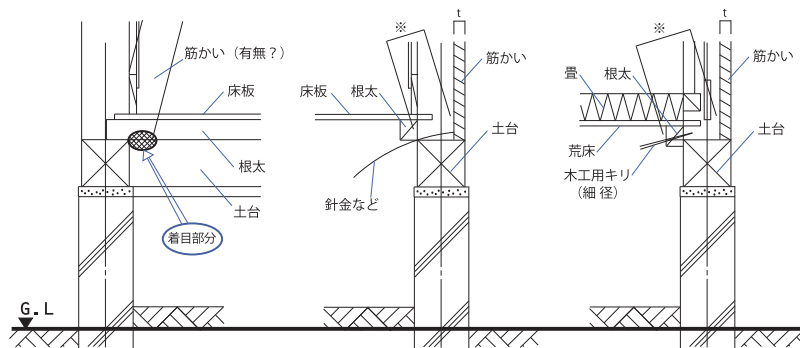
A 目視による確認が原則ですが、どうしても確認できない場合は類推するか、接合部のランクを低くして評価してください。

### 考察

金物が目視できない場合は原則として「金物なし」として安全側の評価とすべきです。また、回答文中にある「類推」という手法はかなり有効だと考えます。なにも窮屈な1階天井裏でわざわざ苦心しなくても、2階小屋裏等の目視できるところで、確認すれば下階のディテールも同じと類推するのはむしろ自然なことと思うからです。大事なことは「全ての耐力壁の存在」を調べ上げることだと思います。この件については本技術通信バックナンバー(2007年12月号)で触れています。またこれとは別に「玄関ホール」回りで床下からの調査も出来な

いケースでは、筋かいの存在の可能性の高さから、お客様に説明・ご理解を得た上で「筋かい尻」の位置を想定して、所有しているキリで最も細い(1.5φ)もので化粧合板の壁に穴をあけ、針金を差し込んで「差し込み長さ」から3つ割り筋かいの存在を確定して進めたこともありました。(この時、復旧の要否・方法は前もって話し合っておきましょう。)更に当組合理事の「白水社長の耐震マスター」の連載にもヒントがあると思いますので、兎に角全ての耐震要素の確認を優先しましょう。次善の策は最後の最後としましょう。

図1 床下の現場調査で「見えない筋かいを探す」  
※技術通信バックナンバー 2007年12月号より抜粋



A どちらも含まれます。

### 考察

構造計算は最も高い精度。N値計算はその次のランクと考えられますので、当然の回答と思います。

### 接合部I~IVについて

接合部Iには、イ)構造計算に基づく接合仕様、ロ)N値計算に基づく接合仕様も含まれると考えますがいかがでしょうか？

### Q80

## 一般診断法 「柱接合部の 低減係数」 についての考察

◎今号のテーマ

「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の質問・回答集の確認

今月号からは、方法2のQ73、78を割愛して飛ばし、「柱接合部の低減係数」のQ79から続けたいと思います。引き続き宜しくお願いします。

さあ、今月もこの回答集をめぐ

り、内容・趣旨を確認し日々の実務に活かして参りましょう。日本建築防災協会に掲載されている文章は、下記ホームページアドレスから直接ご覧ください。

http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/wquest.html